



洪水を防ぐにはどうするの

日本は洪水が多い

日本の川は、大陸の川に比べて川底のかたむきが急で、川の長さが短いので、洪水がよく起こります。

利根川のような大きな川でも、上流で激しい雨が降ってから、2日もしないうちに、河口まで水が流れてきます。

春先の雪どけ水、梅雨や台風のとくに降る大雨などによって、川の水が急激に増えると堤防がこわれたり、堤防をこえて水があふれ、洪水が起こります。

洪水は、広い土地を水びたしにし、道路や田畑、家屋などに大きな被害をあたえます。

森林を増やす

洪水が起こるのは、川の水のけずる、運ぶ、積もらせるはたらきが、最も激しくなったときです。川の水のはたらきを少しでも、やわらげることが必要です。

洪水を防ぐには、まず、森林を増やすことです。森林がたくさんあれば、大雨が降っても、たくさんの水が森林の土にたくわえられて、雨水が一気に、川に流れこむことはありません。

石や土砂が、山から流れ出てくるのを防ぐ、砂防ダムを造ったり、水の流れをゆるめ、川岸がくずれのを防ぐために、金あみの中に石を入れ、へびの形のように作った「じゃかご」

を、川岸に置いたりします。また、堤防を高くして、洪水が起こるのを防ぎます。

(監修・国司 真)

